

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
清熱剤 清臟腑熱剤 20		
おつじとう 乙字湯	祛除血分湿熱	柴胡 5g・黄芩 3g・升麻 1g・大黄 1g・甘草 4g・当帰 6g 水煎し服用する。
叢桂亭医事小言	<p>主治は、血分の湿熱に伴う痔核、陰部瘙痒、下血など。 湿熱が下焦血分に蘊結し、脈絡を阻滯して痔核を、脈絡を灼傷して下血を、肌表を蘊蒸して瘙痒を生じている。</p> <p>清熱化湿の黄芩・大黄に理血の当帰を配合することにより、薬効を血分に引き込み、血中の湿熱を除く。軽宣の柴胡・升麻は、宣発によって利湿を助ける。甘草は、諸薬を調和すると共に、解毒にも働き、また燥性が過多になるのを抑制する。全体で血中の湿熱を除き活血する。</p> <p>血中湿熱による皮疹などにも応用すると良い。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 病状がそれほど激しくなく、体力が中位で衰弱していないものの次の諸症；キレ痔、イボ痔</p>	